



TITLE:

雜報

AUTHOR(S):

CITATION:

雜報. 天界 1924, 4(41): 204-205

ISSUE DATE:

1924-05-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/160069>

RIGHT:

雑報

新しい物體 コペンハーゲン所在の天文電報中央局からの三月十日附の電文によれば、ケニグスツールのラインムス氏が次の位置に一物體を発見せし由。

3月 3.5580 (グリニチ平均時)
赤緯 9時42分18秒
赤緯 北22度9分
日差 2分西 (赤緯)
25分北 (赤緯)

小遊星の観測 三月七日附中央局よりの電文によればウクレに於いてストルーバント氏により一物體が次の位置に観測せられた由

3月 5.3101 (グリニチ平均時)
赤緯 2時42分28秒
赤緯 北16度44分
日差 1分20秒東 (赤緯)
10分北 (赤緯)

その後ヤーキース天文堂のフロスト教授よりの電文には同物體が三月七日ヴン・ピースブルック氏により撮影され、恐らく小遊星イリュ(一七七)ならんと報ぜられた。

ハーシエルの十八時鏡

ハーシエル十八時鏡試験の結果
反射鏡のフコー試験に關し多くの經驗を有するデヴィス氏が昨年同鏡に對して行へる試験は面白きものである。ハーシエルの記録によれば此の反射鏡は金屬製にて一八一八年に父子のハーシエルによりて交代に磨かれて

製作され一八二二年まで使用された様である一八三三年に到り南天の觀測を行ふ爲にジョンは十八時鏡とタリー五時赤鏡を携へて翌年一月にケープに到着三月五日夜より正式の觀測が始められ一八三八年に至つて完成された。此れ有名な Cape Observation である。觀測結果は Results of Astronomical Observations Made during the years 1934-5, 6, 7, 8 at the Cape of Good Hope. として發表されてゐる。星雲星團四〇一五個、二重星二一〇二此の他二重星の測定、光度觀測太陽黑點其他ハレー彗星の觀測等驚くべき多數の觀測が發表されて居る。觀測に使用された十八時鏡は三個ありて交代に磨かれて使用された。此の觀測終了後は全く使用されてない。しかし注意深く保存された。デヴィス氏が帶試験の結果認めたる球面収差は次の如くである。

中心よりの距離	2.5吋	4.0吋	5.6吋	8.7吋
收差	2.5吋を0として	0.098	0.431	0.561

測定結果によれば鏡面は可なり著しき双曲線なれど焦點距離は二十呎なるより悪き鏡とは稱せられず。高倍率觀測には十二時の絞りを使用せる事は像を明瞭ならしむに有力なりしは當然の事なり。更にフコー試験を行へるに可なり著しき双曲線にもかゝらず鏡面は甚だ平坦にて一つも急激なる變化なし。たゞ經驗によりフコー試験法を知らずして作製

せる鏡がかくの如き精度に到達せるはウィリアム及びシレオンハーセルの鏡の製作に對する非常の腕前を證するに足る。

失敗記

去る五月八日の水星太陽面經過は雨天の爲め失敗に終つたが失敗記を書くのも何かにならぬと思ふ。

五月四日の豫想によると八日は曇か雨が思はれたがはたしてあつた。

大津藤井善助氏の希望により新城先生の御許しを得て海老君と大津で觀測する事に定めた。正確なコンタクト時を得る爲に是非クロノメーターが必要であつたが藤井氏の原意により買入れる事には定つたが急に都合出來ずようやく七日の正午にウオルサムクロノメーターが得られた。直ちにリフラーと比較して觀測用具と豫備に私の二時を持つて一時過ぎ出發。海老君と京都驛で落合つた石場月光亭に着いたのが四時になり望遠鏡の準備を始める。五時半より京都天文堂の上田先生と電話でクロノメーターの比較をする。三時四分ノープッシュのはサングラスがあるのを倍率は始めには六〇を使ひ終りには一一〇を使ふ事に定め、六時半スタインハイルは西堀君の作つておいた四時半の絞りを便ひサングラスを急遽して間に合はせる事に定め。三時は八時より一時間餘を費してアジャストを終り準備完成した。

所が空模様は増々悪い。九時頃ちみ星が見えたが十時過ぎから雨が降り出しそうになつ

た。

夜寝る爲に無人の別宅内を探して見たがふさんが無い。藤井氏の厚意でやつと一人分だけ出来た。十一時就寝

一時に目を開くと海老君は雨だと言ふ。四時半にも雨の音が高い。雨で見込み無しとして六時過ぎまで寝入る。……………

夜が明けて東天には太陽が昇つて居る。目を開いたのが六時半でたゞたして驚いた所で目がさめて事實で無かつた喜んだり悲觀したりする。晴れそうになつて又雨になる。二時半まで待つたが見込無しでまとめて歸つた全然何も見えなかつたのであるが藤井氏の御厚意を深く謝しておきたい。

なほウオルサムクロノメーターは今後同臺のタイムキーパーとして重要な備品の一つなるはずである。

中村生記

○山本氏の新著「火星が来るんだ」

今夏の火星の近接に付いて、問答體で面白く書かれたもので左の項目に分つてある。一讀巻を措くこと能はざらしめる。

火星が来るんだ

火星の旅行日程

神様から見た火星

人間から見た火星

會員諸氏の御愛讀及び御廣告を希望す

○間島弟彦氏の御寄贈

故會員間島弟彦氏の父君より(相州鎌倉小町)故人の御遺言により遺愛の望遠鏡寶剣金二百五十圓也天文學發達の爲めに本會に寄附せ

られたり。由つて同金圓を本會基金金中に加入して故人の遺願實現を期する事とせり。

○神戸支部觀測會

四月七日午後七時半より神戸第一中學校にて開會し、森下氏所有のオットー三吋赤道儀及び中村氏のオットー二吋にて月金星土星等其他諸種の天體を觀測し午後十時散會、來會者約二十名、京都より中村氏來會す。

○岡山支部四月通信

一、天界研究會 十二日午後七時から宮原幹事宅で開催。森田候所長、熱心なる奥田毅氏等來會された。

二、會員の來往 八日和歌山縣から會員小横茂代氏來岡、十二日迄滞在、その間に美作支部をも訪問された。

水野幹事は二十日午前中に滋賀縣栗太郡山本助教留守宅を訪ひ、午後は天文同好會總會に出席し、夜行で歸岡した。

○美作支部二月通信

一、例會 二十日(月蝕當日)午後七時から津山女子尋常高等小學校で美作支部第七回例會を開催した。來會者中會員五名、小學校の先生方十名許り、其他補習學校生徒多數で中には小學校の生徒(幸四、鈴木正、戸室武)も來て居た。

講演 月蝕の話

山本孝二郎

後で森本氏の三吋望遠鏡及小生の望遠鏡で月面を觀測した。十一時より月蝕觀測を始めたが俄に加つて來た曇のため充分な結果を得なかつた。それでも初虧の時刻及皆既

の時刻は大體測定する事が出来た。翌日前○時半散會。

二、月蝕觀測。例會閉會後、同僚の林君と月蝕復圓を觀測した。(山本)

○美作支部四月通信

一、會員消息

村次 剛氏病氣療治のため上京入院。
小横茂代氏(和歌山縣在住の會員)

四月九日來津、同夜森本三

時望遠鏡にて天體觀望。

二、出張講演

會員山本孝二郎氏は四月二十六日苦田郡二宮校にて同校生徒のため午後七時より「遊星と恒星」につき講話を行ひ、引つゞき四月の星座の實地案内をせられた。

○松本支部通信

五月八日 水星日面經過の觀測をすべく會員及一般人へも通知し置きたる所、當日は朝來の風雨にて觀測不可能に終つた事は遺憾でした、されど十一時三十七分より五分間、○時四十分より一分間二時二十分より三分間觀測することが出来ました。

五月九日記

幹事 上 條 清 人

○正誤

五月號表紙第一頁の内容見出しの頁數は殆ど全部誤りに付き御許容ありたい。

水星日面經過圖の下1900-1200は1900-2000の誤植。

尚「水星について」中の挿圖は上下轉倒。(校正の時には正しかりしに印刷出來して見て驚く。)